

ロシア語

匹田 剛

瀧川 ニキパレツ・ガリーナ

ロシア語における受動構文は、受動分詞によるものと受動的意味で用いる再帰動詞によるものの2種類があるとされる。例えば、АН СССР(1980:613)には以下のような例が示されている¹：

(1) 受動分詞によるもの²

a. 受動分詞過去

Портрет написан художником.

portrait-nom. write-passp.past artist-ins.

「肖像画は画家によって描かれた。」

b. 受動分詞現在

Учитель любим учеником.

teacher-nom. love-passp.prs. pupil-ins.

「教師は生徒に愛されている。」

(2) 再帰動詞によるもの

Объем статьи определяется автором.

size-nom. paper-gen. decide-refl.prs.3.sg. author-ins.

「論文の分量は著者によって定められる。」

¹ 例文は、アンケートで回答を求められた表現以外にも、議論に必要なものを適宜加えてある。また議論の展開に応じて、文中で紹介する順番も変更したが、アンケート項目に対応するものについては本稿での例文番号(1, 2, 3 ...)に続けて質問項目番号(ア, イ, ウ ...)を付すことで質問との対応を示した。アンケート項目に対する本稿での例文番号は以下の通り：(ア)=(4), (イ)=(16), (ウ)=(10), (エ)=(19), (オ)=(5), (カ)=(6), (キ)=(13), (ク)=(14), (ケ)=(15), (コ)=(8), (ク)=(9), (ケ)=(7), (コ)=(11), (カ)=(12), (キ)=(17)。なお、「j」や「r」が付いているものは同じ質問項目に対するヴァリエーションである。

² グロスで用いた略記は以下の通り：nom.=主格, acc.=対格, gen.=属格, loc.=所格, dat.=与格, ins.=具格, prs.=現在時制, past.=過去時制, passp.=受動分詞, refl.=再帰, 3.=三人称, sg.=単数, pl.=複数, conjn.=接続詞, name.=固有名詞。なお記した文法情報は議論の中で必要と思われるもののみである。

(1)は受動分詞を用いたもので、ロシア語の受動分詞には現在と過去の区別がある。(2)で用いられている再帰動詞は、形式的には通常の動詞に後接辞-ся を付けたもので、これを受動的な意味に用いることで受動を表現する。いずれの場合も動作主は具格によって表す。

また、АН СССР(1980:616), Wade(1992:324-325)など様々な文献でしばしばこれら2種類の受動を表現する方法が動詞の体(アスペクト)と対応関係があることが指摘されている。

глаголы сов. вида выражают страдат. залог преимущественно формой краткого страдат. причастия; глаголы несов. вида выражают страдат. залог преимущественно возвратным глаголом с постфиксом -ся в страдательном значении. (АН СССР 1980:616)

(完了体動詞は受動態をもつばら受動分詞短語尾形によって表現し、不完了体動詞は受動態をもつばら後接辞-ся を有する再帰動詞を受動的な意味で用いたものを使って表現する。)

しかし、例えば(1)b.の動詞 *любить* などは不完了体動詞であるが受動分詞によって受動態が表現されており、この一般化に必ずしも当てはまらない例が存在することも事実である。なお、受動分詞によって受動態を表現する場合、完了体動詞なら受動分詞過去が、不完了体動詞ならば受動分詞現在が用いられる。

また、Timberlake(2004:344)が 5.8.2 Functional equivalents of passive において示しているように、ロシア語では、英語などの言語の受動文の持つ効果(effect)を果たすために、動詞価に変更を加えることなく通常の能動文を用いることがある。

(3) (Я его хорошо помнил,) его схватили прямо на базаре.
he-acc. seize-past.pl. right on bazaar.

「(私は彼をよく覚えていた。)彼は市場ですぐに捕まった。」(Timberlake 2004:344)
(<彼を・市場で・すぐに・捕まえた)

Wade(1992:324)はロシア語における受動態の表現方法の三つ目として「語順」を挙げてすらいる。ロシア語は英語のような言語と異なり語順が「自由」なことで知られるが、態の変換無しに語順が変えられる言語と、変えにくい英語のような言語では受動文の使用頻度に違いがあると言うことは容易に推測できる。英語では受動文がFSPの重要な表現手段になるからである。そこで今回のアンケートに対して、日本語の受動文に対応す

るものとして、ロシア語では受動文と能動文のどちらが可能か、どちらも可能だとすればどちらがより自然か、という観点を中心に考察を加えた。(以下例文の和訳として、原文が受動文であるか能動文であるかに関わらず、全て受動文による訳のみ示した。)

(4)(=7) 「私の息子は教師に叩かれた。」・・・能動・受動両方可。

a. 能動文

Моего сына избил учитель.
my-acc. son-acc. hit-past. teacher-nom.

b. 受動文 (受動分詞過去)

Мой сын был избит учителем.
my-nom. son-nom. be-past. hit-passp. teacher-ins.

(5)(=オ) 「新しいビルが建てられた。」・・・能動・受動両方可。

a. 能動文

новое здание построили.
new-acc. building-acc. build-past.pl.

b. 受動文 (受動分詞過去)

новое здание построено.
new-nom. building-nom. build-passp.

(6)(=オ) 「新しいビルが日本の建築家によって建てられた。」・・・能動・受動両方可。

a. 能動文

Новое здание построил японский архитектор.
new-acc. building build-past. Japanese-nom. architect-nom.

b. 受動文 (受動分詞過去)

Новое здание построено японским архитектором.
new-nom. building-nom. build-passp. Japanese-ins. architect-ins.

(7)(=7) 「壁に絵が掛けられている。」・・・能動・受動両方可。

a. 能動文

Картину повесили на стену.
picture-acc. hang-past. on wall-acc.

b. 受動文 (受動分詞過去)

Картина повешена на стену
picture-nom. hang-passp. on wall-acc.

以上, いずれの場合も能動文・受動文どちらも可能である. ただ, 受動文はやや文語的であり, 少なくとも口語としては能動文の方がより自然であると思われる. 以下, 能動・受動の両方が可能な例全てにおいて同様である.

(8)(=キ) 「財布が盗まれた。」 [1 項] . . . 能動・受動いずれも可.

a. 能動文

Кошелек украли.
purse-acc. steal-past.

b. 受動文 (受動分詞過去)

Кошелек украден.
purse-nom. steal-passp.

(9)(=キ) 「財布がニキータに盗まれた。」 [2 項] . . . 能動・受動の両方が可.

a. 能動文

Кошелек украд Никита.
purse-acc. steal-past.m. Nikita-name.nom.

b. 受動文 (受動分詞過去)

Кошелек украден Никитой.
purse-nom. steal-passp. Nikita-name.ins.

(10)(=カ) 「私は子供に財布を盗まれた。」 [3 項] . . . 能動は可. 受動も可だが違和感がある.

a. 能動文

У меня кошелек украд ребенок.
at I-gen. purse-acc. steal-past. child-nom.
(<私のところで・子供が・財布を・盗んだ)

b. 受動文 (受動分詞過去)

?У меня кошелек был украден ребенком.
at I-gen. purse-nom. be-past. steal-passp. child-ins.

(8-10)の例を見ると、最も名詞項の数が多い(10)のみ受動文に違和感がある。ひよっとすると名詞項の数によって受動化の容認可能性に違いが生じるのかも知れない。

ちなみに、(10)b.の主語はあくまでも財布で、アンケートの日本語とは主語となる名詞句が異なる。

(11)(=ㄎ)「彼女は皆に愛されている。」・・・能動・受動両方可。

a. 能動文

Ее любят все.
she-acc. love-prs.3.pl. all-nom.

b. 受動文 (受動分詞現在)

Она любима всеми.
she-nom. love-passp. all-ins.

(11)では能動・受動ともに問題がないが、以下のペアでは能動文(12)a.には問題がないものの、受動文(12)b.には違和感がある。:

(12)(=ㄎ')「彼女はイワンに愛されている。」

a. 能動文

Ее любит Иван.
she-acc. love-prs.3.sg. Ivan-name.nom.

b. 受動文 (受動分詞現在)

?Она любима Иваном.
she-nom. love-passp.f. Ivan-name.ins.

АН СССР(1980:615)にも示されているように、不完了体動詞の受動分詞現在を用いた受動文は、どの動詞でも規則的に作ることができるわけではなく、さらに文語的な色合いも常につきまとう。(11)の「皆に愛されている」は決まった言い回しとして多用されるため受動文の容認可能性が高まっているのかも知れない。また、ここで用いられている動詞 *любить* 「愛する」は不完了体動詞であるが、再帰動詞によるものは用いられず、受動文を形成する手段はこの受動分詞現在のみである。

(13)(=ㄎ)「カナダではフランス語が話されている。」・・・受動文は不可。

В Канаде говорят по-французски.
in Canada-loc. speak-prs.3.pl. in French

(13)は受動態で表現することができない。ただし、ここで用いられている動詞 *говорить* 「話す」は自動詞であり、*по-французски* 「フランス語で」は名詞ではなく副詞である。動詞を他動詞の例えば *использовать* 「使う」に変更すれば、能動・受動いずれも可になる。

(14)(=か) 「カナダではフランス語が使われている。」

a. 能動文

В Канаде используют французский язык.
in Canada-loc. use-prs.3.pl. French-acc. language-acc.

b. 受動文 (再帰動詞)

В Канаде используется французский язык.
in Canada-loc. use-refl.prs.3.sg. French-nom. language-nom.

その一方で、例えば、*знать* 「知っている」は対格補語を支配する他動詞であるが、この動詞を用いて受動文を作るとは再帰動詞でも受動分詞現在でも不可能である。

(15)(=か) 「カナダではフランス語が知られている。」

a. 能動文

В Канаде знают французский язык.
in Canada-loc. know-prs.3.pl. French-acc. language-acc.

b. 受動文 (再帰動詞/受動分詞現在)

В Канаде *знается /*знаем французский язык.
in Canada-loc. know-refl.prs.3.sg. know-passp. French-acc.
language-acc.

上の(12)と併せて、不完了体動詞から受動態を形成する場合、受動分詞現在だけでなく再帰動詞の場合でも、語彙項目ごとに固有の不規則な制約があることがこれらの例(13-15)から見て取れる。

(16)(=イ) 「私は知らない男性に足を踏まれた。」・・・受動文は不可。

Мне наступил на ногу незнакомый мужчина.

I-dat. step-past. onto foot-acc. unknown-nom. man-nom.

(<知らない男性が・私に・足へ・踏みつけた)

ここで「私」はロシア語では与格が付与されているが、与格名詞句を主格にする受動態は不可能である。

(17)(=コ)「私は彼女に私が怖いと言われた。」・・・受動文は不可。

Она мне сказала, что меня боится.
she-nom. I-dat. say-past. that-conjn. I-gen. fear-prs.3.sg.

ここでも(16)と同様に与格名詞句を主格化する受動化は退けられ、能動文のみが可能である。(ただし、*Мне было сказано, что ...*「私に...と言うことが言われた」というように従属節を主語化した受動文は少なくとも文法的には可能である。)

これら(16-17)において受動文が不可能であることはロシア語の受動文において主語に昇格する名詞句は能動文における対格補語のみであることを示しているが、斜格他動詞(косвенно-переходный глагол)あるいは半他動詞(semi-transitive verb)などと呼ばれる対格以外の名詞句を支配する「他動詞」にわずかながら受動化が可能なものもある。

(18)「国家は法に支配されている。」

a. 能動文

Государством управляют законы.
government-ins. rule-prs.3.pl. law-nom.pl.

b. 受動文(再帰動詞/受動分詞現在)

Государство управляется /управляемо законами.
government-nom. rule-refl.prs.3.sg. rule-passp. law-ins.pl.

この例の動詞 *управлять*「支配する」は具格補語を支配する斜格他動詞であるが一方で再帰動詞・受動分詞現在のいずれによっても受動化が可能である。この例外的振る舞いは、(11-15)で触れた不完了体動詞の受動化には語彙的に制約される不規則性が見られる、ということとも関連があるのかも知れない。

さらに、自動詞構文の受動化はロシア語では一切認められない。

(19)(=エ)「昨日の夜、私は赤ん坊に泣かれた。(それでちっとも眠れなかった。)」・・・受動文は不可。

Вчера ночью у меня плакал ребенок. (Поэтому я совсем не спал.)
yesterday at night at I-gen. cry-past. child-nom.

以上、ここまでロシア語の受動態について見た内容をまとめると以下の通りである：

- (i) 全ての例について能動文による表現は可能だが、受動文については可能な場合と不可能な場合がある。また文法的に可ではあるが違和感が感じられるものもある。さらに上でどちらも同様に可としているものであっても、口語としてより用いられるのは能動文である。これらから、ロシア語では日本語におけるよりも受動文の使用頻度が低いと考えて良いだろう。
- (ii) (8-10)を比べてみると、関与項の数が多いと受動態の容認可能性が若干下がった例も見られた。
- (iii) (11-15)に見たように、不完了体動詞の受動化は語彙的な制約を受けており、必ずしも規則的に作って良いわけではない。
- (iv) (14-19)に見られるように、ロシア語における受動は、他動詞の対格補語を主格主語化するものであり、与格を主格化したり、自動詞からの受動化は認められないのが原則である。ただし、わずかながら対格以外を支配する斜格他動詞の受動化が可能な例もある。

参考文献

- АН СССР (1980) *Русская грамматика*, т. I, «Наука».
- Timberlake, A. (2004) *A Reference Grammar of Russian*, Cambridge.
- Wade, T. (1992) *A Comprehensive Russian Grammar*, Blackwell.